

低コストで効率的な施業の推進に向けて

～列状間伐施業の推進～

十勝東部森林管理署・十勝西部森林管理署・東大雪支署

列状間伐への懸念

- 優良木を生産するため、定性間伐を希望する所有者が多く、立木の品質に関係なく伐採する列状間伐への理解が得られにくい。
- 風倒被害への懸念。

取組目標

- 高性能林業機械を使用した列状間伐等による低コスト化を推進し、安定的に木材を供給する。
- 列状間伐の推進により、かかり木の発生を減少させ労働安全の向上を図る。
- 十勝総合振興局と連携して取り組みを行うことにより、市町村有林・一般民有林への普及を図る。

平成27年度取組と成果

各種会議での情報発信

十勝管内の「市町村森林整備計画実行管理推進チーム」に参画する中で、地域における森林・林業の課題などについて各種情報共有を図り、低コストかつ安全に作業できる列状間伐の普及が進まない実態や伐採跡地で適切な更新が図られていない箇所把握等の問題があり、解決に向けた調査技術向上のための現地検討会の実施等の対応をしていくこととしました。



現地検討会の開催

現地勉強会の開催

十勝管内の「市町村森林整備計画実行管理推進チーム」等の活動の一環として、管内の自治体、森林組合等の職員を対象に、施業技術、知識の向上を図るため、指導林家が実践する森林経営に関する経済価値の高い山づくりなどの情報共有と、列状間伐の事業実施事例の紹介や複層林施業などのメリットを説明するなど、現地勉強会を開催し普及・啓発を行っています。

(平成27年10月1日 本別町 民有林)



現地検討会の開催

「十勝地域林政連絡会議」において、十勝西部森林管理署管内の道有林で実施した間伐2回目の列状間伐箇所において、間伐2回目を列状間伐とするための普及を目的に現地検討会を開催しました。

内容は列状間伐のメリット、①収穫調査は選木技術を要しない、②高性能林業機械があれば作業しやすかった、③残した木への影響がほとんど無い、④かかり木の発生が少ない、⑤当該地は8月に間伐後10月に台風が通過したが、風倒木の発生は見られず強風に対しての不安が安堵に変わった、等の説明がされました。意見交換では「間伐を列状で行うと、伐らずに成長させれば将来高く売れる可能性のある立木まで切ってしまう」、「小面積では導入が困難」等の懸念が強くあり、今後も引き続き、説得力のある説明をしていくこととしました。

(平成27年11月18日 豊頃町 道有林)



更なる取り組みの実施

十勝地区では列状間伐を中心とした取り組みを進めてきましたが、民有林関係者から新たにコンテナ苗等の活用による低コストな森林整備に向けた取り組みも進めてほしいとの要望があり、コンテナ苗に係る現地検討会等を十勝管内の自治体、森林組合等を対象に開催することとしました。

1回目は、十勝東部森林管理署において、コンテナ苗の特徴やメリット、植栽器具の使い方などを見学し意見交換を行っています。

2回目は、十勝西部森林管理署管内の道有林において、コンテナ苗植栽に係る現地研修会として実施し、管内の造林業者も参加しました。

意見交換では植付器具の長所・短所、植付場所へのコンテナ苗の運搬方法、カラマツ以外の樹種の生産、コンテナ苗生産のコスト軽減、早期の補助金制度の確立が必要との意見が出されました。

コンテナ苗の普及に向けて、引き続きメリット等を知ってもらうため、現地検討会等を検討していくこととしました。



今後に向けて

- 列状間伐の民有林への普及・啓発及び、一般民有林を対象とした技術普及を行い、低コストで効率的な施業を推進するため十勝総合振興局・森林室と連携して行う。

- 「一貫作業」により低コストで効率的な施業の推進を目指す。
- コンテナ苗の普及を図る。